

一般社団法人ケアの方舟 訪問カレッジ「Be Prau」 (所在地：埼玉県さいたま市)

事業名 **さいたま地区の超重症児者を取りこぼさない「生涯にわたる学び支援」の構築**

事業の趣旨・目的

超重症児は多くの医療デバイス・医療的ケアを必要とし、主に特別支援学校の訪問教育を受けている。卒後も「通う」ことが難しいことから利用可能な日中活動サービスや学び支援は空白となってしまふ。しかし、ケアの多い彼らの生活の中で「本人主体の学び」は「生きがい」となる。そこで「心身がそのままの状態」で尊重（障害者権利条約17条）される「訪問型」により、彼らの「生涯にわたる学び」を保障するさいたま地区初の超重症児者対象の生涯学習支援事業として**専門性と市民性の両面**から支え、地域の中にゆるやかであたたかなつながりを形成し、双方向でエンパワメントし合える関係を広げていく。

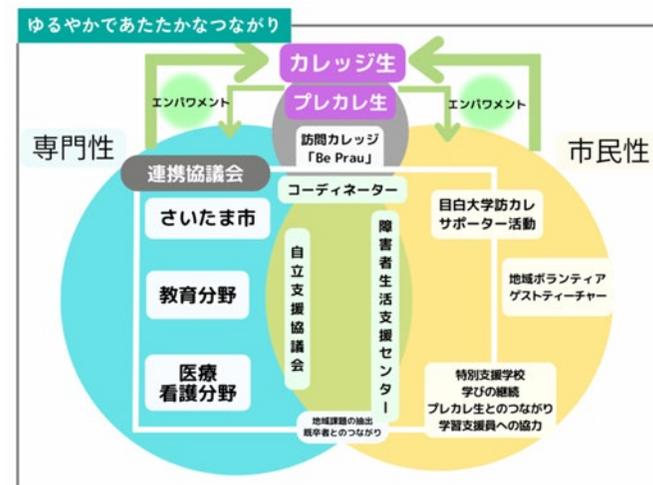
事業実施体制・連携先

一般社団法人ケアの方舟 訪問カレッジ「Be Prau」

連携協議会 さいたま市教育委員会|特別支援教育室・さいたま市障害福祉課・さいたま市自立支援協議会・岩槻区障害者生活支援センターささばし・都留文科大学准教授・目白大学教授・埼玉大学教授・十文字女子大学教授・東京女子医科大学准教授・宮代特別支援学校
目白大学地域連携事業「訪問カレッジサポーター」

事業内容

- ①「訪問型生涯学習支援＝訪問カレッジ」の必要性の周知 卒業後の進路として「学びたい」ということが希望できるように、「通う」が難しい方々に「訪問型」の支援が必須であること、その一つの選択肢として「訪問カレッジ」があるということを通じた連携協議会などを通じて周知する
- ②さいたま地区の埋もれた「学び」のニーズ掘り起こし及び理解啓発 重い障害があっても生涯にわたり成長発達すること、「学び」＝「生きがい」であることへの理解啓発を行い、学ぶ場がなかったことや、医療的ケアの多さからくる余裕の無さから「学び」を諦めている人たち、既卒者のニーズを掘り起こす。
- ③自立した社会人として「ご本人主体」の「生きる力」を育む学習プログラム「Be Prauリベラルアーツ」社会人として必要なベーシックプログラムを学びながら個別性に合った意思決定支援の積み重ねご本人の興味を中心に8分野に広げた学びを主体的に行う。障害者としてではなく自己の可能性と多様性、生きる力を育む。
- ④「専門性」の連携協議会と「市民性」による地域でのゆるやかであたたかなつながり形成 行政や教育、福祉看護の専門性だけでなく、学生や地域ボランティアとの関わりを持ち、「同じ地域で暮らす人」「同じいのちを生きる人」という市民性から「学び」を支え、カレッジ生やプレカレッジ生からもエンパワメントされる双方向の関係性を築き、地域力を育む
- ⑤医療的ケアに対する理解形成と家族のケア負担保障 ご本人主体の「学び」の時間や地域での豊かな生活のためには医療的ケアの担い手問題やご家族の負担保障が欠かせない。地域の資源や実態から問題を共有する。



事業終了後の目指す方向性

さいたま地区で初の訪問カレッジの取り組みにより少数派である超重症児者の存在にスポットが当たり、彼らの「学び」や「地域生活」が保障される基盤を作り、持続可能な支援の構築を目指す。さらに地域に散在する教育・福祉・医療など様々な分野にわたる資源や専門家、機関、事業所、地域住民などを「繋ぐ役割」を果たし、超重症児者にとって、地域で暮らす全ての人にとって、生きやすい社会を作り出せるような**公共的価値**を生み出すことを目指す。

その他

- R5.7 超重症児者の母親らが一般社団法人ケアの方舟設立。法人の事業の一つとして訪問カレッジ立ち上げを掲げる
- R5.8 重度障害者・生涯学習ネットワーク加盟
- R5.11 訪問カレッジ「Be Prau」として学習会開催。NPO法人フュージョンコムかながわ代表理事成田裕子氏を講師に招き、エンジョイかながわの取り組みについて学ぶ（地域の専門職・特支・事業所・療育センター・保健所・家族等32名参加）
- R6.4 訪問カレッジ「Be Prau」開校 カレッジ生1名（新卒）